

HIV/AIDS 予防ケアの基礎となる VCT 活動への参加について

○船井 久子, 田中 久晴(済生会和歌山病院 臨床検査科)並川 敏章(和歌山県田辺保健所 健康推進課)

世界的に HIV 感染者は、増加の一途をたどっており、UNAIDS（国連エイズ合同計画）は世界に 4000 万人の感染者が生存し、年間の新規感染者 500 人の半数が 25 歳未満の若者であると報告しているが、日本でも年々新規感染者は急増し先進国の中では唯一、いまだ HIV 感染のピークをむかえていない国として、UNAIDS より AIDS 対策の遅れを指摘されている。日本の検査体制としては、1980 年代後半より全国の保健所での無料で匿名の HIV 抗体検査が実施されてはいるものの、近年マスコミと国民の関心が低下し利用件数は減少傾向にある。

【目的】検査前後のカウンセリングによる自発的 HIV 抗体検査：VCT（Voluntary Counseling and Testing）事業計画の取り組みについて参加したのが今年 2 月であった。AIDS/NGO が中心となり今年、7 月から大阪と名古屋で開始した。今回、我々が VCT 事業に臨床検査技師として関わってきたことについて紹介する。

【VCT 事業内容】1. スタッフ説明会や研修会を実施。内容は、カウンセリングと HIV 抗体検査の講義と実習である。2. 住民受付は、7 月から大阪では、毎週日曜日、名古屋では、隔週日曜日行っている。

検査法：ICA 法による抗 HIV 抗体の検出

使用試薬：ダイナスクリーン・HIV-1/2（アボットジャパン）

【VCT の効果とメリット】

1. 将来親となる青少年層への HIV 感染予防教育。
2. 検査前のカウンセリングにより十分なインフォームドコンセントを行い、検査後のカウンセリングにより陰性者には予防行動変容に向けた指導を、陽性者には適切な心理支援と医療機関の紹介、種々の社会資源が利用できるようサポートを行う等、人権に配慮し当事者が関わっている AIDS/NGO が検査と相談を行うことでプライバシーの面で誰もが安心してアクセスできる。

【まとめ】利用者の自主的な意志により事前事後カウンセリングを含む HIV 抗体検査の上で、その結果が利用者の行動変容が必要な医療・ケアに結びつく VCT が唯一あるべき姿として UNAIDS から推奨されているが日本ではほとんど実施されていないのが現状である。AIDS/NGO の一員として、日常業務で得た技術と知識を生かすことができればとボランティア活動に参加しているが今後、この事業を続けていくために多くのマンパワーが必要である。

相談に関わるカウンセリングをはじめ、検査・医療、あらゆる面において経験豊富な専門家である臨床検査技師の力が必要である

連絡先：073-424-9805